

あとがき

私は、戦後折にふれて書きためた感想文の類を、前後二冊の本にまとめて出した。『河の音』（昭和四十二年三月刊）と『続河の音』（昭和五十九年十月刊）がそれである。この両書から任意二十二篇を抄出して、年代順に配列したものが本書である。各篇末尾の数字はその発表年月（日）を示す。

成人の日を迎えられた諸姉へのささやかなお祝いの品として、これをお贈りしたい。読んでいただけばうれしい。

なお、題字の「河の音」は、前記両書のためにいただいた故棟方志功画伯の揮毫をそのまま使用させてもらったが、口絵は、本書のために新たに中尾一郎教授のお手をわずらわしたものである。

清水文雄